

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度		開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科			
科目名称	教育の方法と技術（ICT活用含む）							授業形態		演習		
科目コード	750186	単位数	2単位		配当学年	3		実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	渡邊 光浩										ICT活用	○
授業概要	学習指導要領は、学校で育てていく子供たちが社会の中心を担う2030年以降の社会をイメージし、そこで必要とされる資質・能力の育成を今の段階から始めようとして策定されています。これまで築き上げられてきた授業技術や教師の姿勢を踏まえた上で、ICTをはじめとする新しい技術を活用した教育方法の刷新と、情報化がさらに進むこれからの社会で必要となる資質・能力の育成の手法について学びます。具体的には、「教育の方法」として、学習指導要領と授業の基本的な関係と教育方法および学習評価の原理、教師の意思決定の理論について整理します。また「授業の技術」として、授業における発問と指示の技術、教科書や教材の活用にに関する技術を整理します。さらに、ICT（情報通信技術）を活用した学習指導・校務の推進の在り方・児童に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識や技能を身に付けてもらいます。 実務経験教員として、学んだ理論や方法と学校現場での実際との関連を解説します。											
関連する科目	特にありませんが、情報処理論Ⅰで学ぶようなICTを操作するスキルを確認しておいてください。											
授業の進め方 と方法	授業の最初に、テキストのその時間の内容と関係する章をスライドにとめます。それから、教師の解説や資料の閲覧、動画視聴、デジタル教科書・プログラミング教材の体験などをもとに、ディスカッションやICTを用いて学生同士の意見交流を行います。科目の後半では、児童の情報活用能力の育成を取り入れた授業プランを作成し、それを学生同士で相互に見て、コメント機能で評価を行った上で、ディスカッションをします。											
授業計画 【第1回】	オリエンテーション											
授業計画 【第2回】	学習指導要領と授業（第1章）／教育方法の原理と学習評価（第2章）											
授業計画 【第3回】	授業中の教師の意思決定（第3章）／授業における発問と指示（第4章）											
授業計画 【第4回】	教科書活用の技術（第5章）／教材活用の技術（第6章）											
授業計画 【第5回】	学校放送番組の活用（第8章）／思考力を育てる授業（第9章）											
授業計画 【第6回】	学習指導案の作成											
授業計画 【第7回】	教科等の授業における教師のICT活用（第7章）／遠隔・オンライン教育											
授業計画 【第8回】	教科等の指導における児童のICT活用（第10章）／情報活用能力の育成（第11章）											
授業計画 【第9回】	情報モラル教育（第12章）／ICTを活用した授業プランの準備											
授業計画 【第10回】	校務の情報化（第14章）／教育データの活用と教育情報セキュリティ（第15章）											

授業計画 【第11回】	プログラミング教育①（第13章）
授業計画 【第12回】	プログラミング教育②
授業計画 【第13回】	特別支援におけるICT活用／外部との連携や環境整備
授業計画 【第14回】	ICTを活用した授業プランについてのディスカッション
授業計画 【第15回】	まとめ
授業の到達目標	1. これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法を理解する。 2. 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。 3. ICT活用の意義と理論、校務の推進の在り方について理解する。 4. ICTを活用した学習指導や児童の情報活用能力育成のための基礎的な指導法を身に付ける。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	テキストのその時間の内容と関係する章について、授業の時に短時間でまとめられるように熟読し、必要に応じてアンダーラインを引いたり、キーワードをメモしたりしておくことや、分からない言葉があれば調べておくこと。（2時間）
授業時間外学習【復習】	振り返りとして授業で学んだ内容と感想をまとめること。また授業時に課題が示された場合に取り組むこと。（2.5時間）
課題に対する フィードバック	・毎回の振り返りについてのフィードバックは、次の時間に全体で行います。 ・模擬授業についてはフィードバックは、学生同士の相互評価を行います。 ・個別に対応が必要な場合は、授業支援ツールでの連絡やオフィスアワーを利用します。
評価方法・基準	毎回の振り返り（60%）、模擬授業（20%）、最終課題レポート（20%）で総合的に判断します。 ・これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法を理解している。 ・教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付けている。 ・ICT活用の意義と理論、校務の推進の在り方について理解している。 ・ICTを活用した学習指導や児童の情報活用能力育成のための基礎的な指導法を身に付けている。
テキスト	『教職課程コアカリキュラム対応 情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』 堀田龍也、佐藤和紀 三省堂 2019年 2200円（ISBN：978-4385362649）
参考書	文部科学省「教育の情報化の推進」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/index.htm 文部科学省「教育の情報化に関する手引」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html 文部科学省「小学校プログラミング教育の手引」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1403162.htm 文部科学省 遠隔教育システムの効果的な活用 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00932.html
備考	自分のコンピュータをインターネットに接続できるように設定し、充電をして毎回持参してください